

「人権ネットと20年」

松尾 弘

私の息子は、「アスペルガー症候群」といわれています。人権ネットワークには、設立以来、親子で参加しています。法定雇用率が今より低い1.8%くらいのときです。今は、それでも2%になりました。

障害の性質上、学校を卒業するまで、「愛の手帳」を受けられないまま卒業し、就職先がなくて「障害者センター」で認定を受け、「愛の手帳」をとり、「障害者枠」で就職することができました。

はじめに勤めたところは、5年くらいで閉鎖になり、今はコンピューター関係のところで働いています。働き始めてから10年以上になります。

我が家では、本人のステップアップのためになると思い、資格をとることをすすめ、現在進行形中です。

次に、本人は家ではあまり会話をしないので、年に2回くらいの「家族旅行」に取り組み、ともに行動する中で、会話が進みます。

次に、経済的自立を促進するために、家計を別にして、食費以外は本人の管理になっています。

以上のことは、20年以上のネットワークでの話し合いを通じ、本人の生活の参考にしています。

他人に対して、関心が薄く、友人も少ないのが心配です。人権ネットワークの集まりや、「すきっぷ」の集まりは数少ない他人とふれあえる場です。

障害の度合いにより、特に「施設入所」については、本人だけでは難しいものです。等々、家族と本人の努力することもあります。全体の底上げは国や地域の取り組みがないと、まだまだと多くの人たちと話し合う中で、つくづく思います。

最後に、本人の現在の職場の身分は、「半年ごとの契約社員」です。ジョブコーチの都合などで、契約がずれこむと、本人は気持ちがとても不安定になります。このような状態を見ると、親としてどうにかならないと思います。

ふつうの人でも、契約社員が多いので、「仕方がない」といわれてしまいます。

ふつうでも、障害があっても、望めば「無期雇用」であってほしいと思います。

